

■行政提案型市民協働事業について

<令和4年度テーマ（案）>

1	テーマ（事業名） 外国人を支えるやさしいまち	担当部署： 企画財政部政策室
	【現状と課題】 市内において現在約1,300人の外国人住民が生活を送っているが、言語等の面で地域等でのコミュニケーションや日常生活に困難を抱えている人もいる状況である。また、日常生活に困らない言語として日本語を挙げる人も多いが、やさしい日本語（※外国人等にも分かるように配慮して簡単にした日本語）で情報発信を希望する人も多い。このような状況の解決にあたっては、外国人住民への支援だけではなく、日本人の外国人への理解等も必要であり、地域の一員として暮らすことができる環境、またそのきっかけづくりが引き続き必要である。	
	【テーマに対する事業の条件・内容等】 以下のいずれか、または複数の内容を満たすもの <ul style="list-style-type: none"> ・外国人住民の困りごとの解消につながるもの ・外国人住民への日本語支援につながるもの ・やさしい日本語の普及につながるもの ・外国人と日本人の相互理解・課題共有の機会となるもの 	
【協働により期待される効果】 <ul style="list-style-type: none"> ・テーマ分野に精通した団体との協働により、課題解決に有効な事業実施が期待できる。 ・多文化共生社会の推進に関して、市民への啓発にも繋がること期待できる。 		
2	テーマ（事業名） 市庁舎等における緑化デザイン	担当部署： 総務部総務課
	【現状と課題】 前期基本計画では、まちづくりの方向性の一つとして、公共施設を含めた緑視率の向上により、質の高い緑のネットワークづくりに取り組むとしている。 市役所ではこれまで、建物外壁のグリーンカーテン等個別の取組を行ってきたが、市民ひろばを中心に、庁舎敷地内を一つのテーマに基づいてデザインすることで、市役所を緑のネットワークの起点として内外に発信していきたい。	
	【テーマに対する事業の条件・内容等】 市役所市民ひろば等の緑化（花植え、緑のカーテン等）に関する適正配置の検討	
【協働により期待される効果】 <ul style="list-style-type: none"> ・市役所敷地内の緑化推進 ・環境ボランティアの活用 ・市民による魅力あるまちづくりの実現 		

3	テーマ（事業名） 狛江の次世代特産商品の開発	担当部署： 市民生活部地域活性課
	【現状と課題】 広島はもみじ饅頭とお好み焼き、仙台は牛タン等、その土地その土地には名物となる食べ物がセットになっていることが多く、特産品を賞味することを目的にその土地を訪れることもある。狛江市ではこれまで他の地域に比べて粒が大きく甘みのある「枝豆」をPRするとともに、市内事業者によって市内の農産物である枝豆を利用した「えだまめアイス」や「こまえーる」などの商品開発が行われ、販売されてきたものの、季節ものの要素が大きく、広く認知されているとは言えない状況である。	
	【テーマに対する事業の条件・内容等】 具体的商品の検討、商品開発 ※提案団体が商品開発後に製造・販売することも可	
【協働により期待される効果】 季節を問わず、老若男女に広く愛される魅力的な特産商品を開発することにより、狛江市に愛着を持ってもらうとともに、特産商品を目当てとした市外からの来客が期待できる。また、特産商品の知名度が上がることにより、狛江市の知名度向上につながることを期待できる。		
4	テーマ（事業名） 不登校の子どもたちの居場所づくり	担当部署： 子ども家庭部子ども政策課
	【現状と課題】 市内には、不登校・集団不適応・ひきこもり等の問題を抱える子ども・若者の「学びの場」として、NPO法人が運営するフリースクールがあり、当該施設に通所する発達障がい児に対し、狛江市発達障がい児等学習支援事業補助金交付要綱に基づき補助を行っているところである。しかしながら、次年度以降の当該施設の運営が休止されることとなり、新たな「学びの場」を確保する必要がある。	
	【テーマに対する事業の条件・内容等】 子ども・若者の「学びの場」事業を実施する。併せて、子ども・若者の「居場所」や相談の場としていくことで、生きづらさを解消していく。 施設整備等は市が行うが、運営については、団体が行うことで協働事業とする。	
【協働により期待される効果】 不登校児の「学びの場」を確保することで、多様で適切な学習活動につなげ、誰一人取り残すことのない子ども若者施策を推進していく。		